

令和3年度 陸上貨物運送事業  
年末・年始労働災害防止強調運動実施要綱

## 1 趣 旨

- 陸災防においては、「陸上貨物運送事業労働災害防止計画」(2018年度～2022年度)に基づき、
- ① 死亡者数：2018年から2022年の5か年中に15%以上減少させる。(2021年は、87人以下)
  - ② 死傷者数を2017年から5%以上減少させる(2021年は、14,893人以下)
  - ③ 健診の完全実施及び健診結果に基づく有所見者に対する適切な事後措置の徹底を図るとした目標を設定し、その目標を達成するため、積極的に安全衛生活動を展開しているところである。

令和3年の労働災害発生状況(1～8月速報値)は、死亡災害が54人(前年同期比+9人、+20.0%)と大幅に増加、死傷災害も9,612人(前年同期+623人、+6.9%)と大幅な増加となっている。

死傷災害では、墜落・転落、転倒、動作の反動・無理な動作による荷役作業中の災害が多く発生しており、荷役災害の防止により一層強力に取り組む必要がある。

陸運業において労働災害が増加傾向にあることから、令和3年9月29日、厚生労働副大臣から当協会に対して、労働災害防止に向けたより一層の取組に関して要請が行われたところであり、特に、トラック荷台からの墜落・転落防止対策、ロールボックスパレット(カゴ車)及びテールゲートリフターの安全な取扱い方法の徹底を図ることが求められている。

また、暫時減少傾向にあった交通事故についても今年に入って増加していることから、交通労働災害の防止対策にも注力する必要がある。

深刻化している労働者の高齢化問題に対しては、厚生労働省が「高年齢労働者の安全と健康確保のためのガイドライン」(エイジフレンドリーガイドライン)を示したところであり、同ガイドラインを踏まえ、高年齢労働者の労働災害を防止することも必要である。

こうした陸運業における労働災害の課題を踏まえ、その防止対策を推進するに当たっては、各企業・事業場においては、労働安全衛生関係法令を遵守することはもとより、職場の安全衛生管理体制を確立して適切に機能させるとともに、経営者と従業員が一致協力して自主的な安全衛生活動を継続的・効果的に行っていくことが何より重要である。

こうした認識の下、本年12月1日(水)から令和4年1月31日(月)までの2か月間を、令和3年度年末・年始労働災害防止強調運動期間として、労働災害防止の重要性について認識をさらに深め、労働災害防止のために以下の取組を行うこととする。

## 2 実施期間

令和3年12月1日(水)から令和4年1月31日(月)まで

## 3 スローガン

「荷主と連携 安全点検 小さなことから確実に」  
(令和3年度安全衛生標語 荷役部門優秀作品)

## 4 主唱者

陸上貨物運送事業労働災害防止協会本部及び各都道府県支部

## 5 後援

厚生労働省

## 6 実施者

会員事業場

## 7 取組の重点

- (1) 死傷災害の減少を図るため、同災害の約7割を占める荷役災害の防止を重点とし、保護帽の着用等基本的な安全対策の徹底を周知するとともに、「陸上貨物運送事業における荷役作業の安全対策ガイドライン」(以下「荷役ガイドライン」という。)に基づき、全国各都道府県における荷役災害防止担当者講習会の実施、荷主等と陸運事業者との連携・協力促進協議会の開催、荷役労働災害防止対策コンサルティング事業の実施、荷役災害防止安全教育を実施するなど荷役労働災害防止対策を推進する。

- (2) ロールボックスパレット（カゴ車）及びテールゲートリフターの安全な取扱い方法の徹底を図るため、集団指導、個別指導の機会等を捉え、「ロールボックスパレット／テールゲートリフター使う前の5つの基本チェックリスト」、「改良しましょうロールボックスパレット3つのポイントを提案します！」及び「ロールボックスパレット使用時の労働災害防止マニュアル 安全に作業するための8つのルール」を配布し、周知する。
- (3) 増加傾向にある交通労働災害の防止については、「交通労働災害防止のためのガイドライン」の周知をはじめ、「高齢者に配慮した交通・荷役災害防止の手引き」を活用した教育の推進を図る。
- (4) 特に冬季は、積雪や凍結による転倒災害が多発するため、厚生労働省及び労働災害防止団体が主唱する「STOP！転倒災害プロジェクト」に掲げる事項を踏まえた取組を推進する。
- (5) 高齢労働者の労働災害を防止するため、エイジフレンドリーガイドラインの周知を図るとともに、各労働局・労働基準監督署の協力の下、高齢労働者荷役労働災害防止対策コンサルティング事業を推進する。
- (6) 健康診断の有所見率が高い水準で推移していることから、健康確保に向けた対策として、健康診断の完全実施及び長時間の時間外労働を行った者に対する医師による面接指導等事後措置の徹底、ストレスチェックの実施とその結果に基づくメンタルヘルス対策を推進するとともに、腰痛災害防止に向けた取組を推進する。
- (7) 職場における自主的な安全衛生活動を推進するため、職場に潜む危険の芽を事前に摘み取ってリスクの低減を図り、安全度の高い職場の実現を目指す取組である危険予知活動（KY活動）、リスクアセスメント、労働安全衛生マネジメントシステム等の定着を図る。

## 8 主唱者の実施事項

### (1) 各種安全大会、研修会、個別・集団指導等の実施

- ・交通事故、労働災害防止大会の開催
- ・「職場の安全衛生自主点検表」を用いた事業場への個別指導・パトロールの実施
- ・「荷役災害防止安全教育」をはじめとする安全衛生研修会、セミナーの実施
- ・陸運災害防指導員会議等の開催
- ・「腰痛予防対策講習会」（厚生労働省委託事業）への参加勧奨

### (2) 各種啓発資料を活用した災害防止対策の周知・徹底を図る

厚生労働省及び陸災防が作成・配布している各種パンフレット、リーフレット、冊子等の啓発資料（別紙）を活用し、労働災害防止対策の周知・徹底を図る。

### (3) 陸災防労働災害事例生成ツールの活用促進

- ・本年4月から運用を開始した「陸災防労働災害事例生成ツール」の活用促進を進めるとともに、掲載事例の充実を図る。

### (4) 行政との連携、広報等

- ・厚生労働省、都道府県労働局、全日本トラック協会、都道府県トラック協会等関係行政機関、団体等に対し本運動の実施について協力依頼を行う。
- ・広報誌「陸運と安全衛生」、ホームページ等により、本運動の趣旨及び実施事項等について周知・徹底を図る。
- ・安全ポスター、のぼり等の作成・配布により、本運動の気運の醸成を図る。

## 9 会員事業場の実施事項

- ・経営トップは、労働災害防止のためにその所信を明らかにするとともに、自らが職場の安全パトロール等を行い、労働災害防止について従業員への呼びかけを行う。
- ・安全管理者、安全衛生推進者等は、本運動期間中「職場の安全衛生自主点検表」により職場の安全衛生点検を行う。
- ・安全旗の掲揚、安全ポスター・のぼり等の掲示を行う。
- ・「荷役ガイドライン」に基づき、荷主等の協力を得て積卸し作業の内容の確認・把握を行い、荷役作業に伴う安全上の確認事項をあらかじめ運転手に提供できるように、荷主等との「運送契約時に必要な連絡調整に係る事項」の文書による取決めや「安全作業連絡書」の活用を図る。
- ・定期健康診断の完全実施と事後措置の徹底を図る。